チェーロ・エ・テッラ＆ムリアルド・ワールド

共に紡ぎだす友情と連帯の「素敵なストーリー」

http://www.extraordinary-wines.com/images/user/BellaStoria\_murialdo.pdf

2020年、Murialdo World Onlusと Cielo e Terraのコラボレーションから、ビジネスと連帯を結びつけた新しいワイン・ブランド「BellaStoria」がリリースされました。

ベッラ・ストーリア＝「素敵なストーリー」は、連帯の素晴らしさを伝えるべく生れました。3種類のワインの販売による収益の5％は、非営利団体 ムリアルド・ワールドのチャリティ活動に寄附されます。既に14,151ユーロが、アマゾン中心部、エクアドルのナポ市テナでの新型コロナウィルス予防プロジェクトのために寄附されています。

また“連帯”への強い意識に加え、厳格なオーガニック栽培基準に従って育てられたブドウを原料し有機認証を取得した“BIO連帯ワイン”でもあります。

「エクオ・ムリアルドEkuò Murialdo」は、Murialdo World Onlusから生まれたブランドで、慈善活動のために民間企業から得た資金を提供しています。

「ベッラ・ストーリア」は主に海外市場向けに開発されたブランドで、メルロー、シャルドネ、スプマンテ・エクストラ・ドライの3種のオーガニック・ワインで形成されています。

このブランドを立ち上げたのは、ピエルパオロ・チェーロPierpaolo Cieloです。Cielo e Terra株式会社の副社長であり、ヴェネト州モントルソ・ヴィチェンティーノにある創業1908年の歴史的なワイナリーの4代目でもある彼が、ムリアルド・ワールドとのコラボレーションを促進してきました。

2社のサステイナビリティに関する企業方針が完全に一致することから、このパートナーシップは生まれました。環境、経済、社会の360°の持続可能性を高めることが共通の目標です。

アレッサンドロ・ペリッザリヘAlessandro Pellizzariheは、一般企業の管理職の経歴を持っていますが、現在はMurialdo World Onlusの取締役を務めています。彼が非営利団体の世界へ飛び込むことになったのは、西アフリカのシェラレオネ共和国の訪れたことがきっかけでした。2005年、ムリアルドの宣教師による人道的プロジェクトにプライベートで参加した際、最も弱い立場にいる人々を支援したいという思いが沸き起こってきたのです。

ピエロパオロとアレッサンドロの間に芽生えた個人的な友情と協定は、「営利と非営利」、「ビジネスと連帯」といった2つの世界を結び付けました。

この繋がりは、一見不可能と思われる多くの夢をすでに実現させています。例えば、社会から取り残された貧しい若者の支援などを行ってきました。

《チャリティ活動の例》

「生命の井戸」プロジェクトでは、水の供給が非常に困難なシェラレオネ共和国の約14,400人の人々のために、33基の井戸を建設しました。 水の供給に関わることは、チェーロ・エ・テッラにとって特別な意味があります。ワイン生産には、サプライチェーン全体を通して大量の水を必要とするからです。 井戸建設の取り組みは、軽量で環境に優しいボトルへの切り替えにより達成したCO2排出量削減にも繋がりました。

「テーブルに席を増やす⇒居場所を作る」プロジェクトは、南米コロンビアの第二の都市メデジンにおける子供の非行と児童労働搾取を防ぐ取組みです。1,485人の子供たちとその親のために、食事、遊び、学びのためのテーブルを確保し、犯罪、売春、暴力、麻薬取引、麻薬中毒から彼らを遠ざけました。

「壁を越えて」は、メキシコの129人の若者とその家族を支援したプロジェクトです。少しでも多くの人生のチャンスを提供し、移民からの搾取を防ぐためです。

最後に、「ボルサ・ラボーロ⇒ジョブ・エクスチェンジ」プロジェクトでは、イタリア・ヴェネト州で生きづらさに悩んでいた172人の若者たちが学校からドロップアウトするのを防ぐため、資格取得訓練を行い、学校と就職先との橋渡しや就職斡旋サービスの促進を行ってきました。

チェーロ・エ・テッラとムリアルド・ワールドは同じ価値観を深く共有しています。恵まれない境遇にいる若者や貧困家庭に寄り添い、労働の権利を守るといったことです。

深い共感から生まれた10年に渡る有益なパートナーシップにより、イタリア及び世界中で困難に直面している16,000人もの人々を支援してきたのです。

何年も会社で行われてきた経済的、環境的、社会的持続可能性の道筋の確認。それは今後、 “素晴らしき、全ての生き物が共有する母なる地球”の住人として、あらゆる会社が益々貢献を求められるようになるだろう未来の世界に対する、チェーロ・エ・テッラの強い責任感の顕れなのです。

2021.2.10　KIKUCHI